

知・徳・体の調和のとれた生徒の育成	土佐市立土佐南中学校	公印	NO. 1					
研究主題	一人ひとりを大切にしたいわかる授業の創造 ～関わり合いを通して～							
重点項目	評価項目	評価判断基準	達成指標	成果・課題	評価	改善策 (A)	学校関係者評価記入欄	
1 の ば そ う 学 力	学ぶ意欲の向上	児童生徒アンケート「あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E	26年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でBであった。27年度は5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H26:3.9→H27:4.0(+0.1)	○昨年度より0.1P上昇し、3学年平均4.0と学習に取り組もうとする姿勢の向上がみられる。 ○どちらとも言えないと答えた生徒が21名と多い。	A	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への改善を図る。 ○習熟度別指導・ていねいな机間指導やデータをもとに個人にあった指導を徹底していく。	おもしろい授業だったら、授業への意欲が高まるのではないかな。身近な器具を使って実験したり、おもしろくて意欲がわく工夫をするよ。 学ぶ意欲は評価Aなのに対して家庭学習の定着の評価はC。このギャップを改善するべきではないかな。 司馬遼太郎の文章が難しいという若者が増えてきている。高校進学率が98%の時代、中学校で勉強がわからなかった生徒は、高校の3年間でますますわからなくなる。学力が十分でない生徒の学力を、次の3年間のために少しでも上げてやってほしい。高校で意欲を持って時間を過ごさせてあげてほしい。「手に職」という考え方もあるが、専門学校にしても高校を卒業してからおいでという時代。生徒の将来のことを考えると、高校へは行かせたいという保護者の思いは当然のこと。たくましい生徒を育ててほしい。 貧困が学力に与える影響はどのくらい。高知県は就学援助率が日本一。 通塾率は6〜7割。塾に行っている生徒が勉強がわかっているかといえば、そうとは限らない。	
	わかる授業の創造	児童生徒アンケート「あなたは授業がよくわかりますか」の、5段階評価の平均で判断 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E 教員アンケート「あなたは、わかりやすい授業につめていてと思いますか」の、5段階平均で判断。 4以上=A 3.5以上=B 3以上=C 2.5以上=D 2.5未満=E	26年度、児童生徒アンケートでは5段階評価でBであった。27年度は5段階評価でA(4.2P)を目指す。 ・H26:3.7→H27:3.8(+0.1) 26年度、教員アンケートでは5段階評価でBであった。27年度は5段階評価でAを目指す。 ・H26:3.8→H27:3.7(-0.1)	○3学年平均3.8と肯定的な評価である。3教科におけるTT、習熟度別の授業を通して生徒の顔への支援を行ってきた成果ではあるが、さらなる授業力の向上が課題。 ○平均3.7と昨年度よりも0.1P低下した。職員数の減少からTT授業の割合が減ったことも関係していると思われる。保護者アンケートでは、昨年より0.2P上昇し、3.5であった。	B	○「授業のスタンダード」の徹底など、生徒がわかる授業への改善を図る。 ○習熟度別指導・ていねいな机間指導やデータをもとに個人にあった指導を徹底していく。 ○TTや習熟度別などの授業形態以前の教員一人ひとりの授業力の向上を図る。 ○生徒個々の理解度をよりの確に把握し、個に応じた指導を工夫していく。	○全校公開、自主公開の授業研究を計画し、全教員が実施できた。 ○授業研究以外でも、いつでもお互いに授業を見せ合う雰囲気を作れた。	○教員全員が「授業のスタンダード」をめざし、同じ方向に向かっての研究協議、振り返りをしていけるようにする。
	家庭学習の定着	家庭学習時間を小低30分以上、小中45分以上、小高60分以上、中学生90分以上学習している児童生徒の割合で判断。80%以上=A 70%以上=B 65%以上=C 50%以上=D 50%未満=E	26年度は5段階評価でDであった。27年度は5段階評価でCを目指す。 ・H26:64.9%→H27:65.6%(+0.7%)	○家庭学習時間の全学年平均は108分である。学年が上がるにつれて長くなり、3年生は約83%が90分以上である。 ○各学年の粘り強い指導の結果、0.7P上昇し、C評価を達成することができた。	C	○全校で取り組む家庭学習強化週間だけでなく、各教科の日ごとの自主学習について具体的な方法を徹底し、家庭学習の内容が充実するよう取り組む。 ○授業とリンクした課題を与える。	○全校で取り組む家庭学習強化週間だけでなく、各教科の日ごとの自主学習について具体的な方法を徹底し、家庭学習の内容が充実するよう取り組む。 ○授業とリンクした課題を与える。	
	読書活動の推進	学校図書館の児童生徒平均貸出数で判断(小学校) ・40冊以上=A 20冊以上=B ・10冊以上=C 5冊以上=D ・5冊未満=E (中学校) ・20冊以上=A 15冊以上=B ・10冊以上=C 5冊以上=D ・5冊未満=E	26年度は5段階評価でCであった。27年度は5段階評価でBを目指す。 ・H26:平均貸出11冊(12月現在)→H27:平均貸出16.9冊(12月現在)	○学年が上がるほど読書時間、冊数が少なくなる。 ○アンケートより学年ごとに本のニーズを調査し、選書することができた。	B	○2、3年生への読書活動の推進。 ○図書委員を交えた選書会を行い、生徒のニーズに応える。		
	●毎授業で必ず行う内容①できない・分かっていない生徒を見つけ、その生徒を生かすために1度は答えさせる(やらせる)②授業の始めに「本時のねらい」を明示③ペアまたはグループの学習を1回は行う●「学力チェックシート」を活用した授業改善の実施(毎学期)●指導方法の工夫改善(全学年3教科と総合のTT、3年生数学科の習熟度別指導)●小中連携推進合同研修会の実施●単元テスト等による授業内容の習熟度を確認				B	○学力の定着に向けて授業力を高める左記の各取組を行ってきたが今後はそれぞれの取組の効果的な運用と充実が必要である。		
	標準学力調査の状況	NRTの結果(小5・中2)による、学力の定着度で判断。偏差値平均から ・+4P以上=A ・+2P以上=B ・0P以上=C ・-2P以上=D ・-2未満=E	26年度は、標準学力調査について5段階評価で国語はE、数学はEであった。27年度は、5段階評価で国語はD、数学はDを目指す。 ・H26:国語46.9、数学46.4→H27:国語52.7、数学46.7	国語(偏差値平均50)52.7(+2.7):「書く能力」が低い。「話す・聞く能力」「知識・理解」が伸びている。 算数(偏差値平均50)46.7(-3.3):「数学的な技能」が低い。どの観点も昨年よりは伸びている。	B E	○「授業のスタンダード」の徹底、授業評価システムを活用した授業改善の充実 ○放課後学習タイムや加力タイム、日々の宿題などに下級学年の課題を設定し、個々の履きの把握や習熟を高める。	毎年図形が低いという課題が出ている。おもしろく教えてあげてほしい。	
	高知県学力定着状況調査の状況	H26高知県学力定着状況調査(小5・中2)の結果から判断。県平均から、小は+4P以上=A、+2P以上=B、0P以上=C、-2P以上=D、-2未満=E、中は+5P以上=A、+3P以上=B、+1P以上=C、-1P以上=D、-3P未満=E	26年度は、高知県学力定着状況調査について5段階評価で国語はC、数学はAであった。27年度は、5段階評価でBを目指す。 ・H26:国語60.2、数学50.3→H27:国語75.0、数学54.8	国語 H27県平均(65.8)県平均より9.2P上回ったが、記述式問題の正答率や無答率には課題が見られる。 数学 H27県平均(45.3)すべての観点で県平均を上回ったが、記述式の問題では無答率が高く、課題が見られた。	A A	○高知県国語学習シートを効果的に取り入れる。 ○加力タイムでは、課題克服のための授業構成で取り組む。 ○引き続き、調査問題の類題を意識した授業、定期テストを行っていく。		
	全国学力・学習状況調査の状況	全国学力・学習状況調査の結果による、学力の定着度で判断。(ABの合計平均値全国平均と比較して差が) ・+2P以上=A ・0P以上=B ・-2P以上=C ・-4P以上=D ・-4P未満=E	26年度は、全国学力・学習状況調査について5段階評価で国語E、数学Eであった。27年度は5段階評価で国語C、数学Cを目指す。 ・H26:国語58.3、数学52.9→H27:国語65.1、数学46.7	(国語:小67.7 中:70.8)本校65.1(-2.6P)=D 「話すこと・聞くこと」の領域に大きな課題がみられた。 (算数:60.1 数学:53.0)本校46.7(-6.3P)=E 「図形」の領域に課題が見られた。	D E	○「授業のスタンダード」の徹底、授業評価システムを活用した授業改善の充実 ○放課後学習タイムや加力タイム、日々の宿題などに下級学年の課題を設定し、個々の履きの把握や習熟を高める。 ○県教委作成の各種シートをゆこうに活用する。		
	●放課後学習タイム、水曜日の加力タイムの継続 ●「学習シラバス」を活用した家庭学習の取り組み ●課題形式の家庭学習の実施→英語単語ノート、予習・復習プリント→年間を通した継続 ●土佐南中学校区学力向上小中連携推進事業の継続→4部会に組織された小中学校教職員の各グループにより年間3回以上の研修・交流を実施する。				C	○小中学校での実践交流(授業交流及び取り組み交流) ○加力タイムの効果的な実践を推進 ○家庭学習の充実や個別支援の充実を図る取組の推進		

学校関係者評価を踏まえての改善点:

◇数学においては、「図形」領域の指導方法を工夫・改善する取組を充実させる。

◇生徒の実態に応じた加力タイム(水曜日6時間目:30コマ目)の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定(調査において低位だった問題を重点的に復習)

◇全国学テ・県版学力テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導(特に「書く力」「図形」)に取り組む。

◇校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修(興味・関心を高める教材研究の充実)や授業づくり部における取組の充実(意欲化の研究)。

◇どの生徒にとってもわかりやすい授業の工夫や環境の工夫に取り組む。

◇数学においては、「図形」領域の指導方法を工夫・改善する取組を充実させる。

◇生徒の実態に応じた加力タイム（水曜日6時間目：30コマ目）の継続・放課後学習タイム・家庭学習課題の設定（調査において低位だった問題を重点的に復習）

◇全国学テ・県版学テ・標準学力テストの分析結果や授業評価等を反映させた教科指導（特に「書く力」「図形」）に取り組む。

◇校内研修等、個々の教員の授業力向上に向けた研修（興味・関心を高める教材研究の充実）や授業づくりにおける取組の充実（意欲化の研究）。

◇どの生徒にとってもわかりやすい授業の工夫や環境の工夫に取り組む。